

令和5年度

修了考査受験に向けて

<Part2 採点講評編>

● 信頼の力を未来へ
jicpa

◆ 日本公認会計士協会

採点講評・受験者へのメッセージ（会計）－①

- 会計基準の結論の背景に記載されている事項について出題しましたが、正答が多く良かったと思います。会計基準等を関与先や所属する組織において説明する上で、結論の背景を理解することは非常に重要です。会計基準それぞれにおける基本的事項は、用語とともに、記載されているとおりに頭に入れておく必要がありますが、**会計実務を通じて、会計基準等の要求事項だけでなく、その背景にも関心をもって理解**すると、業務でよりレベルの高いサービスが提供できると思います。
- 基本的な論点について、総じて良くできていたと思います。**普段から実務で基準の精神、考え方を何度も考える癖をつける**と応用が利くので良いと思います。

採点講評・受験者へのメッセージ（会計） - ②

- 開示については、あまりできていませんでした。監査の現場でも開示のチェックが不十分なケースが見受けられます。企業の実態を表すためにはどういう開示であるべきか、監査現場ではひな型からではなく、ゼロベースから考えると良いと思います。
- 会計実務上、会計基準等の要求事項を具体的な会計処理に反映するためには、設例の理解が重要です。関与先等との協議においては、具体的な会計処理を即座に説明することが必要な場合もあります。通常は基準書を参照しながら検討を行うことが多いと思いますが、基本的な設例の仕訳は覚えておくようにしてください。
- 文章で解答する問題よりも、金額で解答する問題の方が正答率が低かったので、基本的な仕訳・計算問題は事前に学習されると良いと思います。

採点講評・受験者へのメッセージ（監査） ①

- 数年前に比べ、監基報等の基準に対する理解は進み、一定の基礎知識が身につけている受験者が多くなったと感じています。
- 実務補習所、監査業務や研修等において監査手続を作業としてのみ捉えることなく、その目的や背景を考慮しながら引き続き実務に取り組んでいただけだと思います。
- 減損の情報を受けた前任監査人への質問事項（記述問題）について、会社側の背景や事情に関する解答が多かったのですが、監査手続上のリスク評価や実証手続等に着眼した質問事項をより重視するようにしてください。
- 正確な専門用語に依らずとも、出題の趣旨に沿って監査実務での対応力を発揮できるような解答をされていることは素晴らしいと思います。各論点のキーワードを理解して解答していくと良いと思います。

採点講評・受験者へのメッセージ（監査）－②

- 法定監査（特に上場会社）の年間監査スケジュールを理解して、いつ、どのように監査計画を立案し、監査手続を実施し、意見表明するかを頭に入れて、詳細な手続を検討するように心がけると、監査の理解が深まると思います。
- クライアントに対して資料の依頼や質問をする時に、相手が経理担当者なのか、責任者なのか、又は経営者、監査役や内部監査人なのか、伝える相手を明確に意識して普段からコミュニケーションするように意識すると、実施したい手続がより明確になると思います（誰が、誰に対して実施することを説明したいのか不明確な解答が目立ちました）。
- 普段の業務から、監査手続に必要な資料について具体的な帳票名を意識してチームメンバーやクライアントの方とコミュニケーションするように心がけると、自分の考えが明確に相手に伝わると思います。単に「根拠資料」、「証憑」、「関連資料」、「裏付資料」と羅列した解答が目立ちました。
- 前任監査人への質問事項についての論点は、非常に良くできていましたが、監査報酬の決定権を監査役が有していると誤解している受験者が見受けられました。監査人の選任解任と併せて、会社法の制度設計について、実務補習所のテキストを復習しておくと思います。

採点講評・受験者へのメッセージ（税）―①

- 修了考査に合格し、公認会計士となることで税理士登録をすることが可能となることから、法人税に限らず、所得税、資産税、消費税、海外税務等幅広い分野に精通している必要があります。
- 法人税は所得区分がなく、所得税は10種類の所得区分があることや、所得の対価性は、法人税・所得税に影響を与えないが、消費税は課税不課税に影響を与えるなど、税法固有の特徴を掴んで欲しいと思います。
- 基本的な計算問題については事前に演習問題を解いて練習をしてから試験に臨むようにしましょう。
- 税法は、実際に計算して初めて理解できることがあります。昨年度、良くできている解答は、その訓練が感じられました。

採点講評・受験者へのメッセージ（税）一②

- 租税法に関しては、公認会計士試験、補習所講義、考査、修了考査、合格後のCPDまでのプロセスを租税専門家としての大きな流れとして考えています。その中で修了考査における租税法は、公認会計士試験で培った基礎学力、補習所で養った実務対応力の両方を問う試験となっています。そのため、租税法における主旨・目的等を深く理解する必要があります。
- 採点者が「理解している」と判断できる答案にするため、毎年更新されているテキストと補助教材を復習し続けることが重要です。

採点講評・受験者へのメッセージ（経営） - ①

- 限られた時間の中で出題意図を捉えて理解を示された方と読み取りができなかった方との点差が開く結果になっています。出題の意図をしっかりと把握して解答を作成すると良いと思います。例えば、問題文で会計士が行うべき事項を問われているにもかかわらず、経営者が行う事項を解答しており、また、四捨五入の指示を強調してあるにもかかわらず指示を無視している事例が目立ちました。
- クラウドのリスクの問題は良くできていました。クラウドについては、特にリスクの面は詳細な知識がなくとも、どういう仕組みかの一定理解があればいろいろなことは思い付くと思います。ITの話題についても詳細理解は専門家に任せるとしても、どういうものなのかといった概要の理解はするように心がけてもらえればと思います。

採点講評・受験者へのメッセージ（経営） ②

- 出題趣旨を理解できていない方が数多く見受けられます。例えば、冒頭で「アクセス権限の検討」とあれば、これを意識することで、もう少し解答率が上がると思います
- 補習所のテキストをしっかりと勉強し基本的な事項の修得に努めるとともに、問題文をしっかりと読み（インプット）、解答を丁寧に行う（アウトプット）という基本動作を徹底して欲しいと思います。これらは実務においても大切なことであり、法律や会計基準の要求事項の基本をしっかりと押さえて、その要求事項に丁寧に応えていくということが公認会計士に求められています。

採点講評・受験者へのメッセージ（倫理）

- 非保証業務を提供する際に生じる阻害要因や、監査人交代の際の手続については、比較的正答率が高かったです。
- 精神的独立性に関しては、暗記が不完全であったため意味を違えて零点となるケースが散見されました。丸暗記である必要はありませんので、自分の言葉で書くようにしてください。
- 公認会計士が社会からの信頼を得るために必要な行動規範を定めたものが倫理規則です。実務で個々の事例に遭遇した際に、初期段階での判断、解決への道筋におおよその目途を立てられるようになることが重要と考えます。そのために、基本原則、概念的枠組みの考え方、基本概念（用語）及び規則が定められている対象等を理解するようにしてください。